



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和7年2月25日

我孫子市小中一貫教育だより  
第370号



我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなぎちゃん」

### 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども

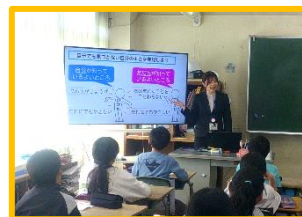


布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

### Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

#### Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」の学習

新木小学校の4年生で「いのち・こころ・からだ」の授業が行われました。全小中学校で9年間を通して命の大切さについて学習しています。4年生では「自分ってどんな子？気になるな」の授業を通して、自己肯定感を高めることがねらいの一つです。



授業は、自分が見つけた「自分のよいところ」の発表から始まりました。次に、「自分でも気がつかない、自分のよさに気がつくよう」の学習課題が提示され、児童はグループになり順番に「友達のよいところ」をプリントに書きました。自分のプリントが手元に戻ると友だちからのメッセージを真剣に読み、笑みがこぼれていました。「授業でも、休み時間でもみんなが楽しくなる雰囲気をつくれる」、「係の仕事を最後まで頑張ることができる」、「忙しくしていると、進んで手伝ってくれる」など、よさを具体的に書いてもらったことで新しい自分が発見できました。授業のふり返りでは、「まだ知らない自分のよさをもっと見つけたい。」「友達に書いてもらったよさをもっと伸ばしたい。」と、発表できました。

中学年になると自分と他者との違いを比較し、時には自信を失うこともありますが、今日の授業では「自分を大切にしようする心」が育ち、同時に他者との関係のなかで今の自分、未来の自分があると気付くことができる授業となりました。

#### Abi-キャリア「高齢者疑似体験・認知症サポート講座」

根戸小学校6年生で、高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座の学習が行われました。この学習は、我孫子市社会福祉協議会・我孫子北地区高齢者何でも相談室・我孫子ロータリークラブの皆さんが協力してくださいました。

高齢者疑似体験では、①身体機能の低下による困難、②視覚機能の低下による困難、③感覚機能の低下による困難の3種類の体験をしました。「体が思うように動かさず、イライラする！」「動くのが大変で休憩する場所が欲しい」といった、高齢者の方の気持ちを理解しました。

認知症サポーター養成講座では、認知症の症状と認知症の方との関わり方について学習しました。認知症の方は、同じ話を繰り返したり、すぐに忘れてしまったりする自分をつらく悲しく思い、苦しんでいることを知りました。また、接し方のポイント「①驚かせない②急がせない③心を傷つけない」も学びました。



学習の振り返りには、「大変な思いがわかったから、高齢の方へ優しく接したい。」と、2時間を通して学んだことと感想がしっかりと記入されていました。高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座を合わせて学習したことが相乗効果を生み、これからの生き方や自分の暮らす地域がどのような地域になったら嬉しいかを考えるきっかけとなりました。